

同窓会報

第19号
昭和60年 5月10日
社団法人
上田高等学校同窓会
印刷所
田辺印刷株式会社

母校、県下最大規模に

伝統の中で、第二の「温古知新」時代へ



入学式 感激と期待を胸に
伝統の校門に入る

★陽春の風薫る四月三日、母校は八十六期生の入学式が厳粛のうちに挙行された。古城の門にあこがれる地域社会の要請により母校も全日制十学級四百五十名、定時制三十六名の新生を迎えた。これは三年連続全日制三十学級、全校生徒職員合わせて千五百名余の県下最大規模の普通課程高校となった。

又、それにもなつて近年生徒も多様化し、女子学生も四割近くを数え、従来の土手烏

といわれた、いわゆるパンカラな校風は影をひそめ、スマートな最新型の新校舎に見合った生徒気質が生まれようとしている。

社団法人 上田高等学校同窓会 昭和60年度 通常総会御案内

同窓会員 各位

理事長 金子 八郎

本年度の通常総会を下記により開催致しますので、お誘い合せの上多数御参会下さるよう御案内申し上げます。

記

- ◎日時 昭和60年6月9日(日曜日) 午後1時より
- ◎場所 上田市大手1-9-8 同窓会館 2階大ホール
- ◎会費 懇親会参加者のみ 1,000円

1. 総会

理事長・校長あいさつ

- 議事 (1)昭和59年度事業報告及び決算承認の件
(2)昭和60年度事業計画及び予算承認の件

2. 受章者祝賀式(御芳名別掲)

3. 記念講演

演題 「国際情勢の読み方」

講師 NHK外信部副部長

柳沢 修氏(54回卒)

4. 祝賀懇親宴会

以上

受 章 者 氏 名	
昭和59年秋叙勲	昭和60年春叙勲
勲五等瑞宝章 大井 聖一氏(24回)	勲五等瑞宝章 滝沢 万二氏(23回)
勲二等瑞宝章 柳沢 厚氏(30回)	勲五等双光旭日章 樋口 澄雄氏(24回)

★しかし、いわゆる御三家の伝統の灯は今なお高く健在で東信濃の雄としての意気と誇りは進學にスポーツに大いに活躍し、松本文男校長を軸として職員生徒一丸となつて母校上田の伝統を守り発展を期して努力している。

一ラスのハーモニーなどが窓から流れ、体育館からはバレーボール、バスケットボールのかけ声の間をぬつてリズムカルな卓球やバドミントンの軽やかな音、さらには格技室からの柔・剣道の気合い、校庭ではハンドボールのかけ声に合わせるかのように、野球の白球が校舎をめがけてビュンビュンと飛びかう風景が昨今の上田高校の姿である。昨年度の上田高校では陸上競技とハンドボールが全国大会に出場、野球、剣道、水泳、軟式庭球、柔道、バスケットボール、陸上、ハンドボール、の各部が北信越大会に出場している。

★伝統を重んじ伝統を又大切にする校風の中で、かつて五十周年(昭和二十五年)の松尾祭に於て「温古知新」の大立看板を古城の門に掲げたが今や母校は真に第二の「温古知新」の時代に入ったといえる。

二十一世紀を背負う若人が母校にしっかりと根をおろしている。

古城の門

古城の門をあとにして二十五年。久しぶりに旧交を温めようと、同級会が開かれた。なつかしく、青春の日が甦つたことはいまでもない。

ただ、ちよつと氣になったことがある▼朴念仁だった男が率先して歓楽の巷を闊歩したり、悪たれで鳴らした男が教育者になっている、といった痛快な変身がみられない。表情や身振りがかりか、今日の職業や生き方にまで、かつてのイメージが生きている▼起伏に豊かな人生が、幸か不幸かは知らない。ただ、中学時代の友人には、びつくりするような変貌をとげた男がよくいる。そんな男に出会ったとき、時の流れの偉大さと、人間というものの奥の深さを感じるのは事実である▼もし、「意外性の男」の出現が、義務教育時代の、多彩な人材に因るものとしたら……。

そして、「入試」というフィルターを通すことで、才能や個性が画一化されているとしたら……▼今ほど国民が、教育を見直そうとしている時代は、かつてなかったのではないか。やはり教育は、人々が豊かな人生を送るためのものであって欲しい。



ごあいさつ

理事長 金子八郎

会報発行の時機が巡って参りましたが、会員の皆様にはますますご清栄の御事と、お慶び申し上げます。

昨年の会報で、会館維持会費について特別のお願いを申し上げましたが、予想以上のご理解ご協力を賜わり、前年に比べ25%増近い維持会費を頂戴しました。お陰様で財政上の憂いなく会が運営できましたことを、厚く御礼申し上げますと共に、引き続き一層のご支援を賜わりますよう、お願い申し上げます。

母校の近況は校長先生のご挨拶の通りであります。ご配慮頂いております進学率も運動部の成績も、昨年は向上し、喜んでおります。更にできる限り校長先生に協力し、母校の進展をはかりたいと念願しておりますので、よろしくお願ひします。

NHKの真田太平記の放映や、浅間テクノポリスの発足によって、当地も新たな発展を迎えようとしております。皆様のいよいよのご活躍、ご発展をお祈り申し上げます。



ごあいさつ

一日一日を全力投球

校長 松本文男

高校御三家という言葉をよく耳にします。松本深志・長野、そして本校を呼ぶようです。大学進学について比較の場合も先ずこの三者が比較され、続いて他の数校が第二グループとして評価を受けている現状と言えましょう。そう

すると本校は他のどのような条件があろうとあたかも横綱と前頭は並べては比較されないようにチャンピオンとしての座を維持するための重荷を背負って生きていると言えましょう。

縁あり本校に在籍する教職員は、これらについて十分理解し、泣きごとを言わず、責任を転化せずひたすら研さんし努力し協力し、主役となる生徒を励ましつつ、負わされた課題の遂行に向って日々を過しております。

同窓会の各位におかれましては、そのあたりをご賢察願われ、ご援助の程お願い申し上げます。特に足らざるを補い、率直にご指摘をいただき、ご遠慮なきご指導を直接学校長にお申し出願えれば、私としては学校へのベストのご協力と感謝申し上げることでしよう。

定時制教頭先生異動

定時制教頭の伊藤和彦先生(44-5)が佐久高校へ転任され、後任に丸子実業高校より佐藤武先生(54回卒)が就任された。

総会記念講演

講師 柳沢修氏(54)

よりの便り

の皆さんから八木正風氏の水墨画「浅間」と、いずれも後輩を励ます最高のものとして深く喜んでおります。

生徒への講演会等も殆んど同窓会員のどなたかにご依頼申し上げてきましたが、ご熱弁に或いは古き良き懐かしい時代の再現に限りない感動を湧き起してくださいます。今年度も続けてご依頼申し上げます。よくと存じおるところです。卒業式或いは入学式という学校二大行事に同窓会から数名馳参じられるご好意に敬服の外はございません。

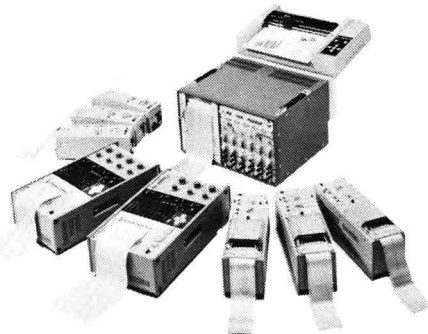
思う。

当時の上田松尾高校時代の野球部のエースとして、二年の秋、三年の春の県大会準優勝と着々と力をつけ、甲子園初出場も手の届くところにあった。30年夏の大会で強敵松商を破り、甲子園代表決定の信越大会決勝戦で、伏兵の伊那北に延長戦で敗れ涙をのんだ。従って上田時代の記憶はほとんどが野球にかかわるものだし、友人達も野球関係者に限られているが、狭い世界でも凝縮された青春だったと

電子計測器ひとすじ、半世紀。おかげさまで今年50周年を迎えました。



HIOKI



新たな挑戦

21世紀に向かって

日置電機

本社・坂城 ☎0268-82-3030/ 東京・札幌・仙台・長野・神奈川・静岡・名古屋・大阪・広島・福岡

伝統が生きる

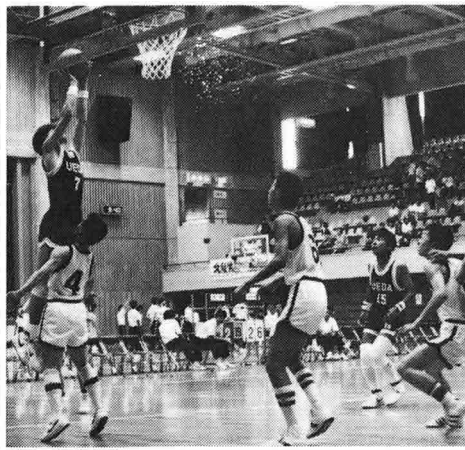
クラブ活動紹介

男子バスケット ボール部

昭和五十六年秋、上田高校にもやっと大きな体育館が完成しました。

男子排球班

この頃より部員数も多くなり、現在三十四名の部員達が勉学とスポーツの両立をめざして、毎日厳しい練習に励んでいます。大会成績も徐々に向上しつつあり、五十九年は県大会決勝戦で東海大三高に惜敗し、全国大会出場は夢は成りませんでした。一か月後の北信越高校選手権大会では選手達の雪辱にもえる闘志



シュート成る？
男子バスケット部の熱闘

がすばらしく、優勝することができました。これは長野県男子チームとして二度目の快挙であります。

現在、新人チームが先輩の

築いた伝統を守るべく厳しい練習を重ねています。秋の長野県新人大会では二回戦で、優勝チームにゴール差で惜敗しましたが、雪辱を期して頑張っています。

今後共、諸先輩方のご支援をお願いします。上田高校の活躍にご期待下さい。

美術班

在校生の数からみれば、ほんの一握り、二十名に満たない集まりの班である。その活動は昔も今も変わりなく基本的な造形力をつけるため、数に恵まれた石膏像とのニラメッコ(デッサン)をシツコクやっています。その発展として絵画・彫塑・デザインへと各々の気持を込めた表現に向かっています。その活動風景は、てんでバラバラですが、一人ひとりは自らのテーマにそったモチーフを孤独に耐えなが

ら東信で優勝しても、県で優勝、あるいは、それに近い成績をとって「上田高校の男子排球班は強い」と県の強力チームにいくらかでもおそれられるチームになりたいと思います。そして東信のバレーボールのレベルアップにつなげ

なければと考えています。バレーボールという球技は年を追うごとにルールが改正され、難しくなると、身長の大小がものを言うようになっています。これはバレーだけでなく、他のスポーツでも同じだと思いますが、県の覇者のチームの平均身長と上田高校とは差があります。そのようなハンディをのりこえていかなければならぬと思います。

郷土班

昭和25年に創設された郷土班は、郷土の地歴についての調査研究と、それを助ける他地域への調査旅行を主な活動としています。

先輩諸兄がきずいてきた伝統を生かし発展するべく、とくに調査旅行は活発です。かつて「じき旅行の郷土班」といわれたほどのすさまじい旅行ではありませんが、夏休みを活用してハードなスケジュールをこなしております。この三年間は、上田市との姉妹都市をめぐる、鎌倉市、兵庫県出石町、上越市を調査しました。その成果は秋の松尾祭に発表、好評をいただいたいております。また59年度は上田市と同じ盆地のなかの城下町、岐阜県高山市を訪れました。生徒達の目で見、足でつかんだ研究だけに重みを持ちます。地元の研究では、郷土をめぐるツアーなど積極的な活動を深めております。



世界の農業に貢献する

ニプロ農業機械

農作業機の総合メーカー！

松山株式会社

取締役会長 松山 篤 (25回)

取締役社長 松山 徹 (50回)

本社・工場 〒386-04 長野県小県郡丸子町塩川2949

☎(0268)35-0300代表

営業所 北海道・東北・関東・長野・岡山・九州

清 酒

初音

NHK大型時代劇「真田太平記」放映記念発売

地 酒

真田十勇士

醸造元 関口酒造合資会社

上田市常田2-21-29

代表社員 今井 邦夫 (45回)

関口 信雄 (67回)

野明 潔先生



グット額を引き、真一文字に結んだ口もと、浅黒い男性的な顔が壇上に立った。昭和九年四月、入学式のA級担任紹介の時である。愛称は「ゴンベーサン」旧姓「山本」が出所という。

知育、徳育と並列して体育に情熱を傾注された先生、厳しい教育姿勢の中にも慈父の如く生徒に敬慕された先生への印象は強烈である。

上中体育史上、特筆すべき画期的な仕事―それは先生宛案の体育写真である。この資料で科学的メスを加えながら私達の心身を鍛えられた。身長計付き黒板の前にパンツ一枚で立つ数葉の写真を見るにつけ思い起こされる。だが惜しむべし、昭和二十四年野明山荘火災時に、貴重なこの資料は焼失してしまった。

昨年十二月訃報に接し、三八会会員が上田斎場に駆けつけ、安らけきお顔に別れを告げ、同期の呈蓮寺住職横内静雄氏の読経のうちに茶毘にふされた。未亡人は、「雪とス

キーを愛した野明は、折柄菅平高原を吹雪く白いベールに送られて、山を下りました。」とごあいさつ。ご最後を飾るにふさわしい劇的な場面であった。

冬は菅平からスキーで通勤された先生、晩年は、教育委員、スキー指導員として活躍され、三八会にもよく出席いただいたが、五十四年八月、卒業四十周年記念に、病軀をおしてのご出席が最後となった。師弟の絆は固く、教え子との交流が余程楽しかったよううだ。同名「潔」が恩師の追悼文を捧げるのも因縁だろう

在りし日の恩師を偲ぶ

教え子の追悼

か。心から「冥福を祈る」合掌―(三八回卒、穂谷 潔)

下島 統一先生



先生が赴任された昭和十二年に私が入学し、クラス担任になられてご縁ができた。アダ名はドンキー。教科は英語で、先生のおだやかな性格で、判り易い授業のおかげで

お元気のことと思ひこんでいた矢先、六月東京在住の同級生宮下俊夫君から、「下島先生が亡くなった。お前もつんとお世話になった筈だから知らせておく」と電話がありびっくりした次第。こんなことなら無理してでも町田市のお宅にお伺いしておいたのだと悔まれる。それでも昨秋我々のクラス会(一六会)が東京で開かれた際、幹事が「長男の敬一氏を招いてくれたので、いろいろお話を聞くことが出来たのがとてもお慰めだった。写真は敬一氏に最近

お借りしたもので、髪の毛以外には昔と変わらない印象だった。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(四一回卒、甲田英久)

中村 六男先生



中村先生との師弟の縁は、水のように淡いようで、どこか妙なところで血肉にもまさって濃いものがあつた。

中に、幾多の友を失いながらも、からくも生き残って敗戦を迎えた我々は、夫々に次の方向の発見に必死の時期があつた。この頃の先生との交流は、英語ではなく人生の師としてのものがあり、あの時の先生の一言が今でも忘れられぬ友が多くいるのである。信大教授から名古屋短大教授を経て、勲三等旭日中綬章を受章され、昨五十九年五月、我々四二回の開催した祝賀会には温顔に笑みをたたえてご出席いただいた。その折の記念リーフレットに「消えろ消えろはかない蠟燭」に始まる愛誦のシエクスピアのマクベスの一句を引用された。昭和五十九年十一月十三日我々の敬愛して止まぬ「六サシ」はもうこの世におられぬ。この寂寥と悲嘆を我々は何処へ捨てればいいのか。 (四二回卒、高橋道彦)

掛川理三郎先生



先生の身上は、黒光りする顔と鋭い眼差し―小柄ながらも均整のとれた体軀にある。

見るからに精悍そのもの、鉄棒に舞う姿は、今も私の脳裡に鮮かだ。それもその筈、東京高師時代は体操の名手として鳴らし、オリンピックの候補選手にもノミネートされたという。それだけに体操指導に秀で、貧弱であつた体操部を県下一に押し上げる実績を残された。

昭和三十年の新生入生は、入学早々、中沢睦次郎校長より難題「一日に最低四時間は自習し、甲子園をめざせ」を授かり、「大変な所に来てしまった」と、少なからぬ不安と動揺に駆られたものだった。そんな臆事な生徒を尻を叩き支えて下さったのも、クラス担任の掛川先生である。大声でハッパをかけるのでなく、一を語って十を悟らせる―越後人特有の粘りと辛抱で、じっくりと教え子の「ヤル気」を待たれた。精進は三年目に実を結び、野球部は晴れの舞台(甲子園)で「上田松尾」の勇名を轟かせ、他の運動部も負けじとばかり長野県制覇を成し遂げた。勉学の面でもくさんの難題をクリアできたと思ふのが「。教え子は今、『プラーリ健康器』の世話になるたびに、「もつと甘えておけば……」としみじみ先生を想う。

(五六回卒、岩崎 功)



長野スロパンガス株式会社

本社 〒386-01 長野県上田市国分542番地 TEL 0268(22)5518代

松本 ―― 諏訪 ―― 広丘 ―― 佐久 ―― 長野

代表取締役社長 山 寺 豊 一 (31回卒)

ヤア、しばらく 同期会各地で！

絵画を母校へ

六十周年を記念して

24期

待望久しかった第二四期六十周年記念同期会の日がついにやって来た。五十九年六月九日、母校同窓会館の庭に集う昔の若人は二十八名を数えた。まず思い出多い古城の門をバックに記念撮影の後、同期八木正風画伯の手になる浅間山の労作十五号の記念品を母校に寄贈した。簡単な贈呈式を終わり、清水教頭先生の御案内で新校舎を見学したあと、別所の南条旅館に直行、一風呂浴びて懇親会に移る。数十年前振りに参加した元ディ

の鎌倉学に出発する。まず日本の中心と言われる生島足島神社に参詣した。神官の打ちならす神鼓のひびきの余韻がいつまでも心にしみわたる。前山寺の住職もやはり上中三四期生で、未完成の完成の塔と言われる三重の塔について丁寧な説明をいただいた。中禅寺の薬師像を拝観したあと、竜光院の山菜料理の味覚を楽しんだが、都会に住む

諸君には特に好評であった。午後は母校同窓会の総会に合流し、級友柳沢晋一郎君の受賞祝賀懇親会にのぞんだ。かくして、二日間に亘る同期会は、天候にめぐまれ無事終了した。これからの残り少ないお互いの人生に、なつかしい思い出としていつまでも残る事と思う。

(斎藤佐五兵衛記)

四年半、物故者もなく

お互いに健康第一に

36会

四月二十一日(土)三六会総会が泊まりがけで田沢温泉富士屋ホテルにて開催された。開宴前に、入学以来交友五十年の記念事業として会員の田中豊雄君が「昨年撮影し、近く母校へ寄贈することになっているスライドを一同で観

大役を矢島五郎氏のあとを引きつぐことになった神野勝男君より大世帯の支部運営のた

めに地元会員の支援をお願いしたいという要請があった。我々三六会員は、日露より第二次大戦の終戦まで四十年の丁度中間に生を受け、終戦からもやがて四十年になろうとしていることを思うと感慨

新たなものがある。しかしこの四年半、一人の物故者もなく、五十代に入ってから以来最長不倒の記録を続けている。我々も六十代の半ばに達し三年後には、卒業五十周年を迎えるが「年は寄れども、心は寄らず」の言葉のように、お互いに健康第一に生き甲斐のある毎を送りたいものである。(折井記) 出席者は、小出公尊、小出徹、甲田力、小林三天、神津善三郎、小島尚一、児玉友雄、神野勝男、田口玲、田中豊雄、田村和雄、外村吉高、中村善衛、半田信次、松岡経義、丸山正樹、松島次郎、宮下義和、矢ヶ崎三郎、山本五助、山崎晃、山崎益男、渡辺佐吉郎、折井正彦

は、目的別に気象衛星、通信衛星、放送衛星、探査衛星とあり、今後更に太陽衛星、その他各種衛星を打ち上げるだろう。太陽エネルギーによる燃料革命が到来するものも二十一世紀の夜明けである。これはあくまでも平和目的と願いたい。ひまわり3号の三万六千キロ上空から見た地球はエメラルドの宝石だ。かけがえのない美しさだ。そこには人間が作った国境がない。この地球がいつまでも平和な楽園であるようにという思いをこのたびの視察旅行でいっそう強くした次第である。

宝石/時計/メガネの専門店●全国宝石学協会々員

宇宙時代の幕明け

種子島宇宙センター見聞記

青々会

たえて、昔と変らぬ張りのある美声でナツメロを熱唱するや、座敷のムードは一気に盛りあがった。

今回の会は、前県立長野女子短太学長で、本月より長野大学学長に就任した神津善三郎君の祝賀の会でもあったのと同君よりの挨拶があった。又、母校同窓会関東支部長の

宇宙時代の夢を乗せて、我々一行は七月十一日大阪から種子島空港へ着いた。炎熱、紺碧の空、ハイビスカスの赤い花が美しい。この種子島は鹿児島島の南方海洋に位置し、宇宙開発の玄関口ともいべきロケット発射場、レーダー・ステーション、その他ニューメディア実験基地として、世界的先端技術の粋を集めている。我々の親友竹中幸彦博士

が宇宙開発事業団の理事であり、ロケット打ち上げの責任者でもあることから、青々会有志一行十一名は種子島宇宙センター視察という壮挙が実現した。ちょうど八月一日に迫った気象衛星(ひまわり3号)の打ち上げ準備大詰の段階で、島の南部にある管理塔、展示館、大崎発射管制塔、発射場、第三衛星組立棟、増田追跡管制所など博士の案内でくま

なく視察することができた。今回打ち上げられたひまわり3号は地上三万六千キロに達したところで地球自転と同速度で円軌道を描いて廻る。地球から見ると静止状態となり「静止衛星」と呼ばれる。八月三日午前五時五十分打ち上げに成功し軌道にのり、観測を始めている。ゆりI・II号に代り新鋭気象衛星となった。日本の追跡センターでコントロールする外、世界各地で観測し又、気象情報を加盟各国へ流している。

今までに打ち上げた衛星には、目的別に気象衛星、通信衛星、放送衛星、探査衛星とあり、今後更に太陽衛星、その他各種衛星を打ち上げるだろう。太陽エネルギーによる燃料革命が到来するものも二十一世紀の夜明けである。これはあくまでも平和目的と願いたい。ひまわり3号の三万六千キロ上空から見た地球はエメラルドの宝石だ。かけがえのない美しさだ。そこには人間が作った国境がない。この地球がいつまでも平和な楽園であるようにという思いをこのたびの視察旅行でいっそう強くした次第である。

宝石/時計/メガネの専門店●全国宝石学協会々員

＊ゆきとどいた保証—



代表取締役社長

矢島 卯太郎 (32回)

上田市中央二丁目8-8

☎(0268)22-0628(代)

ふるさとを離れて

各地の便り

関東支部が会則・会名を変更

関東同窓会が誕生



神野勝男会長

改正の理由

支部を名乗っているため、母校入学時に納めた終身会費があるのに、支部会費を納めるのは不合理という意見。もうひとつは、同窓会館の維持費と支部会費を同一視しているために起るトラブル。

昭和五十九年度総会（六月二十八日・東条会館）に於て上田高等学校同窓会関東支部を上田高等学校同窓会に變更する。

年会費を三千元とし、納入者を以て会員とする。

「小林三郎」

作品集出版

「ヤギヒゲ」で親しまれた

小林三郎先生。昭和22年に染谷高校から上田高校に転任され、31年まで10年間在職されて敬慕する教員が多いが、このたび美術班OB有志が発起人となり、その業績を顕彰すべく「小林三郎作品集」が刊行された。明治・大正・昭和にかけて長野県美術界のリーダーとして活躍された先生個人の遺作、水彩・油絵・彫

塑・素描・子供達に宛てた書翰等、カラー50点モノクロ20点の美麗な写真集である。ミラノに20年在住している長女のあや女史と夫君の福家靖夫氏御夫妻が、この本の出版にあたって帰日され監修された。限定出版であるが残部数十冊あり、希望者は同窓会事務局に申し込まれた。一冊送料共一〇、〇〇〇円）尚、編集委員は、土屋瑞穂（49）、新道茂、尾沢正毅、米津福一（53）、甲田洋三（56）の諸氏である。

創立十周年を迎え

張り切る長野支部

支部長

小林 巳根夫

長野支部は、この七月に創立十周年を迎えます。昨年、初めて小冊子の支部名簿を作りました。ここに登載された会員数は、支部長以下二百一十三人ですが、長野市内在住で、未加入の同窓生も相当数あるように思えます。

支部総会は七夕の宵、市内山王共済会館で開催すること恒例にしていますが、昨年も盛大な集いになりました。天が松尾健児の会合を歓迎したのでしょうか、当日の午後

はがき通信
上田高校新聞をお送りいただきありがとうございます。大学進学率も参考になりましたが、それ以上に面白かったのは「新聞班」の実態です。35年程前、私も新聞班にいました。その頃はガリ版刷りが主で、活版印刷は年に一度、記事はすべて生徒が取材して書いたものでした。名古屋大学の現学長は上田に居られたこともあり、近くの愛知教育大学の現学長は上田市大屋のご出身です。小生の著書も十三冊になり、時の過ぎるのに驚いています。母校懐かしさで筆をとりました。（49回・名古屋大学教授 堀内 守）

総合水処理

小林化学機材株式会社

（フインチ酸による水処理管理グループ）

上田・小諸・甲府・東京

取締役社長 小林 弓右司（55回）

酒類問屋

株式会社

千 曲 錦

上田市中央二丁目24-1

専務取締役 大井 信一（55回）

居住している者たちが集ってひとつの「地区同窓会」を組織し、全くの任意の団体にした。それには、会運営のための会費を出し、会員であることの自覚をもって結束する。と、いうことになったのである。そして、会長に神野勝男氏（36期）をはじめ副会長に浅野基平氏（37期）柳田誠氏（37期）会計長に長藤勝氏（39期）幹事長に清水幾男氏（38期）などスタッフ十三名の外に相談役六名、編集委員七名、広報部委員六名、各期よりの幹事百六十九名、その内より幹事代表五十名を選んだ。毎年大会開催、これに新卒諸君（関東在住者）を無料招待する。（五十九年度には四十余名来会。なお、最大の事業は、年二回の会報発行である。（関東同窓会だより）

今年の総会は、十周年を記念して、より盛会にしたいと意気込んでおります。さて、五月二十七日まで、七年に一度の善光寺御開帳が開催中です。同窓会諸兄弟皆さんの、ますますのご健闘をお祈りするとともに、ご来遊をお待ちしております。（文責）幹事長伊藤義久

ふるさと便り

関係者、ブームを期待

NHK「真田太平記」放映

NHK大型時代の興隆を考えた昌幸、そして悲運の生涯をとじた幸村と、生き残りのために血縁の父弟とたもとを分った信之の乱世における親子の絆、兄弟愛とその相克、さらに、真田忍びと徳川の甲賀忍びによる情報合戦、乱世に生きた女たちの強さと哀しさ、多彩な人物による歴史ロマンが、昌幸・丹波哲郎、信之・渡瀬恒彦、幸村・草刈正雄、小松殿・紺野美沙子、お江・遙くららは豪華配役によって描かれている。

「真田太平記」は池波正太郎氏の原作で、上田城主真田昌幸とその一族が、戦国乱世の中の、北条、上杉、徳川の三大勢力の間で、いかに生き残りをはかったかを、壮大なスケールで描いているもの。ドラマは、ひたすら真田家

水曜日の夜八時、宮本武蔵が放映されていたNHKの大型時代劇が、四月から真田太平記にかわった。池波正太郎の大河小説、週刊朝日に連載された。従来、真田氏を題材にしたものは、高野から大坂の幸村に比重がかかっていたが、この作品は、岩櫃から上田と壮年期の昌幸に多くのページをさいているのが珍らしい。したがって、上田も多く登場するわけだが、十一万都市の市街地に四百年の昔が残

では上田駅前広場に若き日の幸村の馬上銅像を建てるほか



上田駅頭に建てられた真田幸村像
＝市観光課提供＝

つぎのように各関係機関が対策を講じ、真田ブームを期待している。

上田真田まつり実行委員会では、築城四〇〇年祭の時に始めた真田武者行列を四月二十一日の桜花の期に実施、あわせて、市観光協会では、上

田駅頭や真田神社、芳泉寺、大輪寺などゆかりの杜寺に六文銭ののぼり旗を立て、商店街でも、のぼり旗で歓迎ムードを盛りあげている。
また、菓子、酒、土産品業界などでは、真田ゆかりの商品名や包装紙などでイメージアップを図っている。
そして旅館業界では、真田十勇士をあしらった手拭を製作し、観光客に上田の印象を強めようと工夫をこらしている。

母校のあたり？

ついているというのは、奇蹟に近いことだろう。

しかし、そんな中に埋もれ

巧妙にふくらませている。小説の上田攻めで、火をふき出す横曲輪は、今の市役所から

小説 上田攻めの場

四百年の昔、今甦る

ながらも当時の伝承がまだ残っている所もあって、作者は上田を訪ねて、そんな断片を

上田高校のあたり、昌幸が愛妾お徳を住まわせるのは、真田町本原のお屋敷跡。幸村が

女忍者お江と結ばれる別所ので湯は、石湯ということにして、連載当時早くも真田幸村公隠しの湯の碑がたつた。

この放映が一年間というところで、商工会議所を中心に、単に一年間にとどまらず、息の長い事業をすすめるなければと、(仮称)上田・城下町活性化会を設立させて、上田城を中心とした観光・文化を振興させることで市内の産業発展をはかるというものと、(仮称)信州上田真田陣太鼓保存会を発足させ、上田市づくりの礎となった真田一族の知略と武勇を陣太鼓に託して表現し、郷土芸能として後世に伝えていこうという動きを進めている。

これらの動きに加え、住居表示により、城下町ゆかりの町名が消えていくのを惜しんで、町名(現在、自治会では使っている)を積極的に使って城下町の雰囲気を感じようという意向もある。

しんきん 上田信用金庫

理事長 濱 村 謙一郎 (35回)

本店 長野県上田市中央三丁目2番17号(原町) 〒386 ☎0268-22-6260

駅前支店 (上田駅前)
岩村田支店 (佐久市岩村田)
川原柳支店 (上田市川原柳)
小諸支店 (小諸市大手)
野沢支店 (佐久市野沢)
大屋支店 (上田市大屋)
丸子支店 (丸子町上丸子)

常磐城支店 (上田市常磐城)
御代田支店 (御代田駅前)
常田支店 (上田市常田)
中込原支店 (佐久市中込原)
塩田支店 (上田市本郷)
軽井沢支店 (軽井沢町中軽井沢)
東部町支店 (東部町常田)

取締役社長 柳 澤 晴 夫 (40回)